

日本生殖看護学会ニュースレター

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)

No.37

目次

・特集：不妊症看護認定看護師の所属施設外での活動	1
・第12回日本生殖看護学会学術集会のご案内	3
・勉強会開催のお知らせ（関西地区）	3
・勉強会開催報告（山陰地区、関東地区）	4
・各地区で開催する勉強会の支援	5
・勉強会等の運営費の助成	5
・もし不妊看護の現場で行き詰ったら・・・	5
・これから行われる学会・研修会情報	6
・平成26年度研究助成のお知らせ	6
・不妊症看護認定看護師リレー寄稿 No.15	7
・理事会報告	8
・事務局からのお知らせ	8
・編集後記	8



特集：不妊症看護認定看護師の所属施設外での活動

「Fine 祭りに参加して」

不妊症看護認定看護師 神戸研修センター5期生

医療法人 越田クリニック 藤島 由美子

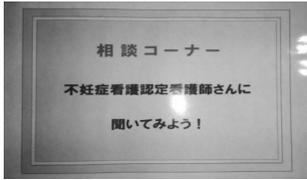
2013年11月3日に東京品川で行われた、NPO 法人 Fine ～現在・過去・未来の不妊体験者を支援する会～主催の Fine 祭り2013に、不妊症看護認定看護師の相談員として参加しました。

ホールでは精子と卵子&治療最新情報の講演、そして不妊体験談を交えた「トークセッション」が行われ、ロビーでは不妊症看護認定看護師や胚培養士による相談コーナーと不妊当事者を応援する企業による商品展示・販売が行われていました。

今回、聖路加看護大学認定看護師教育課程1期生の白田浩美さんとともに、ふたり体制で相談を受けました。10時の開場とともに次々に相談の予約を取りに来られ、あっという間に予定していた予約が埋まりました。

相談時間はひとり30分で、相談内容は「受けている治療内容はこれでよいのか?」「他にできることはないのか?」「自分の通院しているところではなかなか相談できない」あるいは「夫婦間の問題」などでした。情





報提供を行ったりお話を伺ったりし、とても充実した時間でした。「これからの進む道が見えた」「気持ちの整理ができた」「セカンドオピニオンとしての価値があった」「話せてスッキリした」「今まで封印していたことが話せて楽になれた」などの感想をいただきました。

医療機関で相談できない、信頼関係が築けていないなど、相談できる場を求めて来られていると感じました。30分という短い時間でしたが、それぞれの方が自身で進む道を見いだせたり、気持ちの整理ができたりしたこと、相談者の方のパワーを感じるとともに、それを支援する私たちの存在はとても大切であると感じました。

今後も所属施設内だけでなく、不妊に悩む方の支援に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

10年目を迎えた九州地区勉強会

不妊症看護認定看護師 神戸研修センター1期生

医療法人 蔵本ウイメンズクリニック 村上 貴美子

毎年、“今年も勉強会を”と九州地区の不妊症看護認定看護師（CN）が持ち回りで勉強会の企画をし、他のメンバーが運営協力をする。最初は身内に近いメンバーでの勉強会だったが、九州地区のCNが増え（福岡5名、熊本1名、長崎1名）、CNが企画する勉強会を地域の不妊に関わる職種の方々に提供し、貢献できればと考えた。当初は1個胚移植の会告（2008年）の前で、多胎妊娠の管理が問題だった。早産や低出生体重児の管理、妊娠中に児の異常が見つかる症例もあり、不妊治療施設と妊娠分娩管理施設、育児期を支援する保健センターからの参加者として一緒に勉強やディスカッションを行った。その後は高齢化する対象者の支援のあり方や受精卵取り違い事故の報道年はリスクマネジメント、PCOSや肥満とストレス、我々支援者のストレスマネジメント、男性不妊などその時々で関心の高いテーマを企画し、勉強会を行ってきた。毎年行う実績がメーカー協賛にもつながり、数年前から経済的支援も含め運営援助を得ている。今では、“この勉強会を毎年楽しみにしている”と参加者とも顔馴染みとなり、同じ分野で働く職種が集い、勉強できることが頼もしくもある。

10回目の今回は、妊娠判定陰性という難しい場面における臨床現場での対応やその看護を再考する機会とし、遠方から佐藤泰子先生（京都大学非常勤講師、人間環境学博士）をお招きし講演をして頂いた。このテーマは臨床家には不変のテーマであり、さらに参加しやすい時間や会場設定を行い、CNメンバーの協力もあり、スムーズに会を進行することができた。参加者59名からのアンケート結果（回収率95%）では、目的の達成度94%、実践への応用や役立ち度91%という結果を頂いた。

2014年は11年目となり地道に行ってきた九州地区勉強会も一区切り、次のステージに入りたいと思う。CNだけに限らず不妊症看護を愛する新たな企画委員のメンバーを迎え、エリアも九州地区から西日本地区に拡大し更なる飛躍を目指し頑張ろうと決意を新たにしている。今回は、浜の町病院（福岡）の松尾CNが企画をしてくれます。さて、どのような企画となるか楽しみにして下され。



佐藤泰子先生の御講演の様子

第12回日本生殖看護学会学術集会のご案内

明日からの実践に生かそう!! 生殖看護の声

2014年9月14日(日)開催 大阪国際会議場 グランキューブ大阪

今、生殖医療現場で働く看護職の皆様は、「これでいいのか?本当にいいのか?」と日々、患者支援について模索していませんか? 生殖看護における看護の悩みを共有し、生殖看護の役割や支援方法について学び、明日から今まで以上のよりよい看護を展開したい、つなげたいとの決意を込めてテーマを「明日からの実践に生かそう!! 生殖看護の声」と掲げました。

今年度は日本 IVF 学会と同日開催のため、他職種の方にも生殖看護に興味を持って頂き、活発な討議ができるようプログラムを予定しています。皆様の参加をお待ちしております。

(会長 小松原 千暁)

☆参加申し込み方法 ※事前申し込みは8月31日までにお願いします。

事前登録：会費6,000円 非会員7,000円 学生(大学院生・研修生は除く)無料

当日参加：会費7,000円 非会員8,000円 学生(大学院生・研修生は除く)無料

振込先：りそな銀行東大阪支店 口座番号：普通0194306

口座名：第12回日本生殖看護学会学術集会

振込欄：①氏名 ②区分(会員/非会員) ③プログラム・抄録集の発送先ご住所 ④お電話番号を明記ください。

※学生はメールにて氏名、学校名・メールアドレス。お電話番号の情報を学会事務局へお申し込みください。学会当日は学生証をご提示ください。抄録集は会場にて1,000円にて販売いたしております。

☆一般演題・ポスターのお申し込み方法

HPより専用用紙をダウンロードし、メールにて事務局アドレスへお申し込みください。

演題申込は4月22日必着、演題抄録締切りは5月13日必着です。

☆お問い合わせ先：第12回日本生殖看護学会学術集会事務局(担当：澤辺麻衣子、森分純子)

医療法人三慧会 IVF 大阪クリニック 〒577-0012 大阪府東大阪市長田東1丁目1-14

TEL 06-4308-8824(代表) 内線221 FAX 06-4308-8814(代表)

学術集会 HP アドレス：<http://www.jsfn12.jp/> E-mail：jsfn12@ivfosaka.com

勉強会開催のお知らせ—関西地区勉強会—

妊孕力を高める食事と食事指導について考えよう!
～妊娠しやすい体作りのために知っておきたい食の知識と指導～

私たちの体は食べたものでできています。四季折々自然の中で栽培され収穫された食物は、その時期に収穫される意味があり、苦みや甘み、辛みや渋みはその時期に体が求めている食材でもあります。それらを適切に選択し、調理し、正しく体に取り込むことは体の機能改善や細胞の修復に役立ち妊娠・出産のできる健康な体を作ります。

食養士の先生を囲んで、食事指導のあり方、情報提供の方法をディスカッションしてみませんか? 臨床の現場で、実際に困っていらっしゃる皆様からの事例提供を用いてディスカッションをする予定です。是非、ご参加ください。

日時：2014年(平成26年)3月16日(日)13:00～16:30 受付開始：12時30分 勉強会開始13時00分
場所：クロスウェーブ梅田

大阪市北区神山町1-12 Tel 06-6312-3200

講師：宮本恭子先生(薬膳クッキングスタジオ主宰 管理栄養士、食養士)

参加費：日本生殖看護学会会員 1000円 非会員 1500円

申し込み方法：Fax：06-6311-2531(扇町レディースクリニック) mai：meetingkansai@chiku@gmail.com

担当：不妊症看護認定看護師 西尾京子

申し込み締切：3月7日(金) ※定員に達した時点で受付終了する場合があります

第2回山陰地区勉強会報告

報告者 内田クリニック 永島百合子
鳥根県立中央病院 勝部 愛子

2013年10月13日（日曜日）鳥根県立中央病院会議室にて、『鳥根県の里親子・養子縁組制度について学ぶ～不妊当事者の治療以外の選択肢への支援を目指して～』というテーマで勉強会を開催いたしました。鳥根県中央児童相談所から山崎俊行氏（調整監）を迎え「里親制度と鳥根県における現状と取り組み」についてご講演をいただきました。また生殖医療施設からは、内田クリニック不妊症看護認定看護師、永島百合子より、当事者の里親・養親の選択についての思いをまとめた研究結果の報告を行いました。

参加者は看護職12名、児童相談所関連の行政職5名（講師含む）、新聞記者1名の18名でした。山崎氏の講演からは、児童虐待のケースでも実親が子どもを手放さないケースもあり、子どもの幸福を一番に考えた対応が必要であるが、その難しさについても述べられました。また制度の改正により児童相談所が、出産後子どもを養育できない妊婦への早い時期からの対応が可能となり、今後は医療機関とも連携して、養育を希望するご夫妻のもとへ出産後子どもを速やかに委託し、家庭で養育ができるようにコーディネートする必要性が述べられ、行政と看護職相互にその役割を確認することができました。今後は実際の連携体制の確立が課題となりました。

また生殖医療施設からの研究結果の報告では、児童相談所職員へ、不妊当事者の心理、里親・養親の選択に対する心の葛藤など、当事者のインタビューを通しての思いを伝えることができ、今後は児童相談所でも不妊当事者の心理へ配慮した対応が可能になることが期待できました。

初めて児童相談所と看護職が合同の勉強会を開催し連携できたことは、里親・養親の選択を考える不妊当事者が、必要な情報提供を受けることが可能となり、当事者の選択肢の幅を広げることにつながると評価できました。

2013年度関東地区勉強会報告

報告者 山王病院 井上 直子

2013年12月8日（日曜日）山王病院3階 山王ホールにて「男性不妊症患者の心理について～男性不妊症カップルに対してのかかわり方～」をテーマにした勉強会を開催し、多忙な中、22名の方が参加してくださいました。

講師にファティリティクリニック東京の菅野伸俊先生（不妊症看護認定看護師）をお迎えし、男性不妊症の原因から男性・女性の特徴、不妊男性・不妊女性への対応と注意点などのお話をいただきました。また、男女の違いについてはクイズを取り入れ楽しく解説していただき、不妊男性・女性の対応については実際のご経験を踏まえ対話形式で具体的に分かりやすく講義していただきました。グループディスカッションでは男性不妊患者カップルのかかわりで困ったことや工夫していること、今後の看護の展望についての話し合いを行い、各グループ発表し全員で考えを共有することができました。不妊症看護の現場で働く医療職は多くが女性であり、不妊という性にかかわる問題であるため男性不妊症患者へのかかわりに戸惑うことも少なくない中、「男性の特徴を理解し私たち医療者が不妊男性に対する苦手意識を払拭することが重要です。」という菅野先生の言葉が印象に残り、今までの自らの看護の姿勢を振り返る機会となりました。アンケートからも、「なかなか聞けない興味深い内容で大変勉強になった」「男性の特徴を理解し実践に役立てていきたい」との声が聞かれ、とても学び多い勉強会となりました。遠方からもご参加いただきありがとうございました。

各地区で開催する勉強会の支援

教育推進委員会では、会員が主催する各地区の勉強会を支援したいと考えております。初めて企画を担当される方、あるいは自分たちの地区でもぜひ勉強会を開催したいけれどどうしたらよいかのわからない…等、お気軽にご相談ください。勉強会を企画されている代表者の方は、開催日時、開催場所、テーマあるいは内容、連絡先（住所、電話番号、FAX 番号、メールアドレス）等を下記の連絡先までご連絡下さい。よろしく願い申し上げます。

【連絡先】日本生殖看護学会教育推進委員会 担当理事 森 恵美
〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学大学院看護学研究科 母性看護学教育研究分野
TEL : 043-226-2410、FAX : 043-226-2414 E-mail : mori@faculty.chiba-u.jp

勉強会等の運営費の助成

生殖看護の実践に関する勉強会を支援するために、平成25年度の勉強会助成の募集を以下のように行っております。皆様のご応募を心よりお待ちしております。

なお、日本生殖看護学会ホームページ (<http://jsin.umin.jp/study/josei.html>) に、助成の申請に関する詳細と申請書類等が掲載されていますのでご覧ください。

日本生殖看護学勉強会等助成要項

【助成の趣旨】

日本生殖看護学会員による生殖看護の実践に関する勉強会を支援するために、勉強会等運営費を助成し、日本生殖看護学会員サービスに寄与し、生殖看護の発展を図ることを目的とする。

【助成の対象】

会員個人または共同で開催する勉強会等企画者を対象とする。

【応募資格】

1. 勉強会企画代表者は会員であって、会員歴2年以上である者。
2. 共同で企画する場合は、代表者以外の共同企画者も勉強会開催時に本学会会員である者。
3. 勉強会予算案を日本生殖看護学会員と非会員の参加費に格差をつけ、作成していること。

【助成金】

助成金は勉強会の企画1件につき1万円を限度とし、当該年度の助成は3件までとする。

【助成期間】

平成25年9月1日～平成26年8月31日までの約1年間とする。

【応募方法】

1. 学会所定の勉強会助成申請書に必要事項を記載し、1部を学会教育推進委員会宛にメールで申請する。メールの件名は「日本生殖看護学会勉強会助成申請」とする。
2. 応募受付期間：平成25年4月1日～平成26年6月30日、ただし、勉強会開催の2か月前までに応募する。
3. 申込先：日本生殖看護学会教育推進委員会 担当理事 森 恵美
〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学大学院看護学研究科 母性看護学教育研究分野
TEL : 043-226-2410、FAX : 043-226-2414 E-mail : mori@faculty.chiba-u.jp

【選考及び助成の決定】

教育推進委員会において選考の上、応募から1か月以内に、応募者にメールで通知する。

【助成金の使途】

勉強会の企画・運営に必要な講師料、物品費、旅費、通信・運搬費、印刷費などを含む。

【勉強会の成果の報告】

1. 助成を受けた者は、勉強会終了後、参加人数および成果、収支決算を教育推進委員会にメールで報告する。
2. 勉強会の内容および成果は、ニュースレターに掲載する。

もし不妊看護の現場で行き詰まったら…

日本生殖看護学会が相談にのります

実際に患者さんと関わっていく中で、「目の前にいる患者さんにどのように対応したらいいのだろうか?」「患者さんとゆっくり話ができる環境を作るためにはどうしたらいいのか?」など、臨床の現場ではシステムや価値観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じるがあると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えていきたいと考えています。会員の皆様からのご相談をお待ちしています!

なお、詳細は学会ホームページをご覧ください。

これから行われる学術集会・研修会情報（2014年3月～6月）

月	日	学会・研修会名	会場	学会 HP / 運営事務局
3月	8日	レッツ・トーク・不妊「不妊と向き合う」	慶應義塾大学（日吉キャンパス） 来往舎	フィンレージの会 参加費1,000円 http://www5c.biglobe.ne.jp/~finrrage/ 不妊当事者&家族&医療者歓迎 申し込み不要・当日直接お越しください
3月	23日	第31回 すまいる親の会勉強会 「AIDを選択する前に考えておくこと」	参加希望の方に直接お知らせします	すまいる親の会 参加費 1人3000円 カップル5500円 対象は AID を検討しているカップルですが、このテーマを勉強したい医療者も歓迎します 詳細は事務局清水まで メール：k shimizu@juu.ac.jp 電話 0475-53-4703
3月	22～23日	日本助産学会学術集会（第28回）	長崎ブリックホール（長崎県長崎市）	(株)コンベンションリンクージ内 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-3-6 第三博多偕成ビル TEL：092-437-4188 FAX：092-437-4182 E-mail：jam2014@c-linkage.co.jp
4月	18～20日	日本産科婦人科学会学術講演会（第66回） IMAGINE THE FUTURE ～想像しよう、未来を～	東京国際フォーラム（東京都千代田区）	http://jsog.umin.ac.jp/66/index66.htm (株)MA コンベンションコンサルティング 〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7 麹町パークサイドビル402 Tel：03-5275-1191 Fax：03-5275-1192 E-mail：66jsog@macc.jp
5月	30日	日本不妊カウンセリング学会総会・学術集会（第13回） 若い世代に語る ～命を育むこと、そして不妊のこと～	ニッショーホール（東京都港区）	日本不妊カウンセリング学会事務局 toiawase@jsinfrc.com
6月	21～23日	日本保健医療行動科学会学術大会（第29回） ライフサイクルと行動科学 －人はどう生まれ、どう生きて、どう死ぬか－	筑波大学東京キャンパス文京校舎（東京都文京区）	第29回日本保健医療行動科学会学術大会事務局 〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学総合研究棟 D510 Email：hasimoto@hcs.tsukuba.ac.jp
6月	28日	日本母性看護学会学術集会（第16回） テーマ「周産期看護と健やか親子21」	京都橘大学清香館（京都府京都市）	〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34 TEL / FAX：075-574-4247 E-mail：jsmn2014@tachibana-u.ac.jp
6月	30日～2日	ヨーロッパ生殖医学会：ESHRE（第30回）	ドイツ（ミュンヘン）	http://www.eshre2014.eu/

平成26年度研究助成のお知らせ

会員の皆様の研究活動支援として、研究助成制度を設けています。

詳細および申請書類につきましては学会ホームページ（<http://jsin.umin.jp>）をご参照下さい。

皆様のご応募を心よりお待ちしております。

研究助成募集要項

【研究助成の趣旨】

生殖看護の実践に関する調査・研究を支援するために、会員を対象とし、研究費を助成し、生殖看護の発展を図ることを目的とする。

【助成の対象】

個人又は共同の研究者を対象とする。

【応募資格】

1. 研究代表者は会員であって、会員歴2年以上である者。
2. 共同研究者は、申請時に本学会会員である者。

【助成金】

研究助成金は研究計画一編につき10万円を限度とし、当該年度の研究助成は2件までとする。

【研究助成期間】

平成26年9月1日～平成27年8月31日までの1年間とする。

【応募方法】

1. 学会所定の研究助成申請書に必要事項を記載し、2部（正1部、副1部）を下記担当者宛に「研究助成申請書類在中」と朱書きし、書留で送付する。申請書類は返却しない。
2. 応募受付期間：平成26年4月1日（火）～6月30日（月）

【選考及び助成の決定】

研究助成審査会において選考審査の上、平成26年8月下旬に応募者に文書で通知する。選考に関する問い合わせには応じられない。

【助成金の使途】

研究活動に必要な物品費、旅費、通信・運搬費、印刷費などを含む。

【研究成果の報告】

1. 助成を受けた者は、研究が終了後、その結果を理事長に報告する。
2. 研究成果は2年以内に日本生殖看護学会で発表し、さらに日本生殖看護学会誌に投稿する。
3. 研究成果を他に発表する場合には、日本生殖看護学会の研究助成を受けたことを明記する。

＜お問い合わせ・申請書類送り先＞

川元 美里（将来検討委員会幹事）

〒104-0045 東京都中央区築地3-8-5

聖路加看護大学看護実践開発研究センター

TEL/FAX 03-6226-6381 E-mail: kawamoto@slcn.ac.jp

不妊症看護認定看護師
リレー寄稿

No.
15

「不妊症看護として何ができるか」

神戸研修センター4期生 碧南市民病院 鈴木 順子

私が勤務している病院は、愛知県碧南市にある病床数320床の総合病院です。名古屋まで1時間ほどかかる場所に位置する、いわゆる田舎です。そんな病院の産婦人科病棟の助産師として所属しています。病棟には妊産褥婦はもちろん、術後の患者さんや抗がん剤治療の患者さん、時にはがん患者のターミナル期の看護もあり、他科の患者さんを担当することもあります。そういった部分ではとてもバラエティーに富んだ職場です。毎週月曜日には外来で「なでしこ看護相談」として、不妊、生理不順、更年期など様々な女性の悩みなどの相談を受けて話を伺っています。

当院では一般不妊治療までしか治療していません。体外受精を必要とする場合は他の医療機関に紹介をしています。長い間、関わってきた患者さんが他院に通院することになると、その後のことが気になり、心配だったり寂しい気持ちにもなったりします。

不妊症看護認定看護師として働くようになってからは、不妊症看護として自分に何ができるのかと考えるようになりました。一般不妊治療しかしていない病院に勤務しながら、不妊症看護認定看護師として十分に活動していけるのだろうか悩んだこともあります。しかし、当院の強みは不妊治療を経た患者さんと妊娠した後も妊婦健診で会い、分娩時に病棟で会い、産後は赤ちゃんにも会い、産後の健診で大きくなった赤ちゃんにも会えることです。不妊に悩んでいるときから、妊娠した時の嬉しさと戸惑い、妊娠中の不安な気持ち、生まれた時の感動、産後の育児の悩み、それぞれの時期を通してずっと患者さんの気持ちに寄り添える。これぞまさに当院ならではの不妊症看護認定看護師としての醍醐味だと感じることが出来ます。地域密着型の病院でもあるので、何か月・何年か経ってから病棟に親子そろって遊びに来て下さることもあり、この仕事をしてよかったと感じる瞬間でもあります。

これからは、今まで以上に継続した看護ができるように外来と病棟の連携体制を整備して、安心して通院・入院できる環境を作っていきたいと思っています。また、病院に通院している患者さんばかりではなく、結婚前の青年期の世代への不妊予防教育ができるようにしたいと考えています。

理事会報告

第1回臨時理事会（書面決議）

日時：2013年9月18日(水)

場所：書面による。

出席者：野澤、森明、遠藤、橋村、實崎、清水

【審議事項】

1. 日本生殖医学会「未受精卵子および卵巣組織の凍結に関するガイドライン（案）」へ役員の意見を取りまとめ、学会有志の意見として提出することを承認。

第1回理事会

日時：2013年11月1日(金)

場所：聖路加看護大学 本館5階505室

出席者：野澤、森明、村本、上澤、岸田、清水、橋村、森、有森、菅野、實崎

【報告事項】

1. 第11回日本生殖看護学会学術集会：参加者数、評価、反省点、寄付を報告。
2. 第12回日本生殖看護学会学術集会：開催日程、テーマ、など進捗状況を報告。
3. 理事長：日本不妊カウンセリング学会の市民公開シンポジウム後援承諾を報告。
4. 広報委員会：NL発行時期、特集記事テーマ、電子配信に関する意向調査を報告。

5. 教育推進委員会：勉強会企画に関する資料作成、HPに掲載計画を報告。
6. 編集委員会：査読委員の依頼、論文投稿数、研究助成者に論文投稿依頼を報告。
7. 将来検討委員会：助成金の採択者による研究計画書修正の確認、研修会企画を報告。
8. 総務：会員の年代分布、地域分布、平成25年度役職・委員会構成の加筆を報告。
9. 看保連対応WG：看保連臨時総会の報告。不妊症看護認定看護師実態調査結果の報告。
10. 会計：積極的に年会費を回収する予定を報告。
11. 監事：報告事項なし。
12. 実践開発委員会：不妊症看護認定看護師の派遣、相談員派遣マニュアルの作成を報告。
13. 在宅自己注射マニュアル作成WG：今年度のスケジュールおよび予算案を報告。

【審議事項】

1. 入会審査：5名の入会を承認。強制退会の該当者に意思確認をとることを確認。
2. 看護系学会における看護ケアガイドライン開発状況調査への協力と回答内容を承認。
3. 相談員派遣マニュアル：タイトル、内容の一部を協議、修正し、承認。
4. 将来検討委員会：研修会は他関連学会と重複しない日程の決定を承認。

事務局からのお知らせ

1. 第12回学術集会、編集委員会への問合せは、それぞれの事務局に直接お願いいたします。日本生殖看護学会への問い合わせ、会員に伝えたい情報、HP、ニュースレターに関するご意見・ご希望等ありましたら、E-mailもしくはFaxで、気軽にご連絡ください。
2. 2012年度より、学会の年会費は8,000円になっております。会費納入は、できるだけお早めに、金額をお間違えなく、お願い申し上げます。
3. 異動・転居された方は必ず事務局までご連絡願います。ニュースレター、学会誌の送付はメール便を使用しているため、郵便と異なり、転送されません。
4. 会員数325名（平成26年1月17日現在）です。学会の活性化を一層はかるため、生殖看護に関心のある、お知り合いの方にぜひ入会をお誘いください。入会案内および入会申込書は学会ホームページからダウンロードできます。

編集後記

今年9月に開催予定の第12回学術集会は新企画を盛り込みつつ準備が進んでいます。皆さまお楽しみに、ふるってご参加ください！また、先日はニュースレターの電子化に関するアンケートへのご協力をありがとうございました。いただいた貴重なご意見にお応えできるよう検討を進めてまいります。

広報委員：上澤悦子、實崎美奈

日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing. JSFN

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1
聖路加看護大学内

TEL & FAX 03-5550-2293

E-mail: jsin@slcn.ac.jp

ホームページ <http://jsin.umin.jp>

口座番号：00170-2-333414

加入者名：日本生殖看護学会